

平成29年度 奈良県高校生議会日程 (平成29年8月22日)

時	議事内容	会場
9:30	受付	議会棟2Fロビー
10:00	オリエンテーション 「県議会の概要について」説明	第1委員会室
10:40	高校生による議会運営委員会	議会運営委員会室
11:00	議場リハーサル等	本会議場、各委員会室
12:00	昼食	第1委員会室
13:00	高校生議会 開会行事 ・議長、知事挨拶 ・高校生議員の紹介 ・理事者の紹介 ・県議会議員の紹介 ・高校生議長の選出	本会議場
13:10	知事等との意見交換 〈高校生からの質問〉 ・4校	
14:30	休憩(10分)	
14:40	再開 〈高校生からの質問〉 ・2校	
15:20	〈高校生からの提言と同採決〉 ・6校	
15:50	閉会行事 ・知事所感、副議長挨拶 ・記念撮影	
議場から委員会室へ移動		
16:00	議員との意見交換会 ・意見交換 ・記念撮影	各委員会室
17:00	終了	

平成29年度 奈良県高校生議員名簿

智辯学園奈良カレッジ高等部

議席	氏名	ふりがな	学年
1	法村 武昌	のりむら たけまさ	1年
2	杉江 里桜	すぎえ りお	1年
3	平沢 麻緒	ひらざわ まお	1年
4	千本 貴浩	せんぼん たかひろ	1年

郡山高等学校

議席	氏名	ふりがな	学年
14	松井 奈央	まつい なお	2年
15	桑原 一樹	くわはら かずき	2年
16	中谷 千幸	なかたに ちゆき	2年
17	田中 日菜	たなか ひなた	2年
18	中村 壮太	なかむら そうた	2年

育英西高等学校

議席	氏名	ふりがな	学年
5	宮崎 緑才	みやざき つかさ	1年
6	門野 愛美	もんの あみ	1年
7	神谷 あゆ美	こうや あゆみ	1年
8	竹内 千乃	たけうち ちの	1年

登美ヶ丘高等学校

議席	氏名	ふりがな	学年
19	大塚 登記	おおつか とうき	1年
20	松井 紀子	まつい のりこ	1年
21	重信 朱音	しげのぶ あかね	1年
22	尾崎 虹星	おざき ななせ	1年
23	辰巳 優香	たつみ ゆうか	1年

高田高等学校

議席	氏名	ふりがな	学年
9	北 ひかる	きた ひかる	2年
10	東 佳帆里	ひがし かほり	2年
11	南 和希	みなみ わき	2年
12	村田 美音	むらた みと	2年
13	西村 優希	にしむら ゆき	2年

畝傍高等学校

議席	氏名	ふりがな	学年
24	中村 有希	なかむら ゆき	2年
25	江川 陽菜	えがわ ひな	2年
26	高橋 紀花	たかはし のりか	2年
27	竹林 明日香	たけばやし あすか	2年
28	森本 千優	もりもと ちひろ	2年

※ 議席欄は本会議場の議席番号です

奈良県高校生議会 出席議員名簿

会 派	氏 名
自由民主党	亀田 忠彦
	池田 慎久
	新谷 紘一
自民党奈良	西川 均
	奥山 博康
	荻田 義雄
	岩田 国夫
	乾 浩之
	小泉 米造
日本共産党	小林 照代
	太田 敦
	宮本 次郎
	山村 幸穂
	今井 光子
創生奈良	山本 進章
	川口 正志
日本維新の会	中川 崇
	佐藤 光紀
	清水 勉
	松尾 勇臣
民進党	猪奥 美里
	藤野 良次
	森山 賀文
	田尻 匠
公明党	山中 益敏
	大国 正博
	岡 史朗
自民党絆	川口 延良

合計 28 名

奈良県高校生議会 座席表

なかがわ 中川 産業・雇用 振興部長	ますだ 榊田 くらし創造部長 兼景観・環境局長	はやし 林 医療政策部長	ふくにし 福西 子ども・女性 局長	あべ 阿部 財政課長	うえだ 上田 議会事務局長	きたむら 北村 事務局次長	まつもと 松本 議事課長	事務局		
どい 土井 健康福祉部長	もりた 森田 観光局長	やまもと 山本 南部東部 振興監	むらた 村田 地域振興部長	つじもと 辻本 総務部長	ふくだに 福谷 農林部長	やまだ 山田 県土マネジ メント部長	こんごう 金剛 まちづくり 推進局長	にしかわ 西川 水道局長	なかざわ 中澤 会計管理者 ・会計局長	
なか 中 危機管理監	ひとまつ 一松 副知事	むらい 村井 副知事	あらい 荒井 知事	あらい 荒井 知事	やすだ 安田 警察本部長	よしだ 吉田 教育長				

高校生議長
演壇

		1	2	3	4	5	6	7	8		
		智辯学園奈良 カレッジ高等部	智辯学園奈良 カレッジ高等部	智辯学園奈良 カレッジ高等部	智辯学園奈良 カレッジ高等部	育英西高等学校	育英西高等学校	育英西高等学校	育英西高等学校		
		のりむら たけまさ	すぎえ りお	ひらざわ まお	せんぼん たかひろ	みやざき つかさ	もんの あみ	こうや あゆみ	たけうち ちの		
		法村 武昌	杉江 里桜	平沢 麻緒	千本 貴浩	宮崎 縁才	門野 愛美	神谷 あゆ美	竹内 千乃		
	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
	高田高等学校	高田高等学校	高田高等学校	高田高等学校	高田高等学校	郡山高等学校	郡山高等学校	郡山高等学校	郡山高等学校	郡山高等学校	
	きた ひかる	ひがし かほり	みなみ わき	むらた みと	にしむら ゆき	まつい なお	くわはら かずき	なかたに ちゆき	たなか ひなた	なかむら そうた	
	北 ひかる	東 佳帆里	南 和希	村田 美音	西村 優希	松井 奈央	桑原 一樹	中谷 千幸	田中 日菜	中村 壮太	
	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
	登美ヶ丘高等学校	登美ヶ丘高等学校	登美ヶ丘高等学校	登美ヶ丘高等学校	登美ヶ丘高等学校	畝傍高等学校	畝傍高等学校	畝傍高等学校	畝傍高等学校	畝傍高等学校	
	おおつか とうき	まつい のりこ	しげのぶ あかね	おさき ななせ	たつみ ゆうか	なかむら ゆき	えがわ ひな	たかはし のりか	たけばやし あすか	もりもと ちひろ	
	大塚 登記	松井 紀子	重信 朱音	尾崎 虹星	辰巳 優香	中村 有希	江川 陽菜	高橋 紀花	竹林 明日香	森本 千優	

奈良県高校生議会質問通告書一覧

智辯学園 奈良カレッジ 高等部	質問項目及び質問の要旨	答弁を求める 理事者
法村 武昌 (1番)	<p>1 介護人材確保対策について</p> <p>担い手不足により、介護サービスが充実しているとは言えない状況にあり、担い手不足の理由には、介護職員の離職率が高いことが挙げられる。介護職員の離職を防ぎ、介護サービスを充実させるためには、ベアを含めた労働条件や労働環境の改善を促すことが必要だと考えるが、県としてどのような対策がより効果的であると考えているのか。</p>	知 事
杉江 里桜 (2番)	<p>2 地域の人たちが子育てを支える仕組みづくりについて</p> <p>地域の人同士が子育てを援助し合うシステムには、知らない人に子どもを預ける保護者の不安が存在するが、子育てを助けてもらいたい側と助ける側が交流できる場をつくることにより、その不安を解決することができる。更に、その交流を通して地域での子育て支援がより充実すれば、育児のために離職せず働き続けやすくなると思う。地域に住む人たちと子育てする人たちがつながりを持ち、「地域で子育てを支える」仕組みづくりが必要と考えるがどうか。</p>	知 事

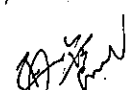
育英西 高等学校	質問項目及び質問の要旨	答弁を求める 理事者
宮崎 緑才 (5番)	<p>1 観光推進政策の具体策の実施について</p> <p>奈良県には、「山」「川」があり、世界遺産も温泉もある。本県にしかない魅力をしっかりアピールをするとともに、「世界遺産」を中心とした観光資源PRに加えて、インターネット関連のPRをすべきと考える。広報戦略や助成事業も含めて、京都や大阪とは異なる視点での取組をしているのであれば、奈良県独自の視点からどのような戦略を立てて観光振興に取り組んでいるのか、具体的に伺いたい。</p>	知 事
門野 愛美 (6番)	<p>2 奈良県での子育てを望む人を増やす政策について</p> <p>新婚世帯・子育て世帯への様々な支援、妊娠出産における母子支援、保育所の拡充及び一時保育・病児保育事業の普及など、いずれも市町村で取り組むべき内容が多いと思うが、県が中心になって子育て環境を良くしていく必要があるのではないかと考える。奈良に住み、子育てをしたくなるような人を増やすために、具体的にどのような政策を考えているのか。</p>	知 事

高 田 高等学校	質問項目及び質問の要旨	答弁を求める 理事者
北 ひかる (9番)	<p>1 小学生の保護者に対する情報モラルに関する研修の実施状況について</p> <p>今の小学生の親世代が小学生だった頃は、スマートフォンはなく、携帯電話もあまり普及していなかったため、保護者自身の情報モラルについての理解や経験が不十分かも知れない。小学生の情報モラルを高めるためには、大人に対する情報モラルを高める取組が必要だと考えるが、知事はどのように考え、取組を進めようとしているのか。</p>	知 事
東 佳帆里 (10番)	<p>2 公立学校における情報機器の普及について</p> <p>今後、学校の授業では、生徒たちが調べたいことがすぐ調べられる授業環境が必要になると考える。教育の機会均等の立場からも、公立高校においてもタブレットの普及が必要であると考え、タブレットなどの情報機器を公立学校に今後一層普及していくことについて、どのように計画しているのか。</p>	教 育 長

高 田 高等学校	質問項目及び質問の要旨	答弁を求める 理 事 者
南 和希 (11番)	<p>3 新学習指導要領の実施に向けた教職員研修について</p> <p>今年示された学習指導要領でキーワードとなっている「主体的・対話的で深い学び」を授業の中で実現し、変化の激しい不確実な時代を生き抜いていく力を子どもたちに身に付けさせるには、教員の授業の改善、授業力の向上が不可欠と考える。新学習指導要領の視点に立った教員の研修について、どのように計画しているのか。</p>	教 育 長

郡 山 高等学校	質問項目及び質問の要旨	答弁を求める 理事者
松井 奈央 (14番)	<p>1 観光地の案内について</p> <p>看板や標識がわからなくてもスマホで使える観光アプリなどがあれば、外国人観光客がもっと便利に奈良を観光できるようになるのではないかと考える。すでにくつかのすぐれたアプリが開発されているが、外国語には対応していない。多くの文化的背景をもつ外国人観光客を対象にした観光案内アプリの開発やソフトの開発を目指すという計画はあるのか。</p>	知 事
桑原 一樹 (15番)	<p>2 林業・木材産業の振興について</p> <p>県の戦略では森林保有者と素材生産者とをマッチングさせるなどして、平成32年度には木材生産量を25万m³に増やすとあるが、優れた建築資材である県産の木材を県はどのような用途に利用しようと考えているのか。具体的な利用方法を伺いたい。</p> <p>8/21 (w) 9/3</p>	知 事

登美ヶ丘 高等学校	質問項目及び質問の要旨	答弁を求める 理事者
大塚 登記 (19番)	<p>1 奈良県における総合診療専門医の確保について</p> <p>県民にとって大きな関心事である医療体制の整備・充実に関しては、今後も県民の期待に応えるために引き続き積極的な姿勢で進めていかれると思うが、その中で、今後新しく認定されることになる「総合診療専門医」の確保について、県としてどのような考えを持っているのか。</p>	知 事
松井 紀子 (20番)	<p>2 高齢者の日常の交通手段の確保について</p> <p>急激な高齢者の増加に伴い、高齢者の一人暮らしや夫婦だけの世帯の増加や、高齢者の自動車運転免許の自主的な返納等により、これまでのように容易に移動することができない状況が起こっており、高齢者の日常の交通手段を公的に確保していく必要があると考える。高齢化が進む中、県内に居住する高齢者の日常の交通手段の確保について、今後どのように進めていくのか。</p>	知 事

1/16p


畝 傍 高等学校	質問項目及び質問の要旨	答弁を求める 理事者
中村 有希 (24番) <i>再算 高橋さん SMS?</i>	<p>1 漢方のメッカ推進プロジェクトについて</p> <p>現状、多数の若者は、漢方のメッカどころか、漢方についての知識を持っていないと思われる。まず、漢方のメッカ推進プロジェクトを通じて、奈良県内の若者にも普及を進めていくべきであり、私たち奈良県民が漢方について知っていくことから、他府県へのアピールが始まっていくのではないかと考える。一般人、特に若者に対して、これからどのような方法で普及を進めていこうと考えているのか。</p>	知 事
江川 陽菜 (25番) <i>1m44p 1m25p</i>	<p>2 南部・東部の振興 定住の促進について</p> <p>南部・東部地域の振興には、あらゆる政策を総動員しなければならないが、特に、全国から生徒が集まる魅力ある高校づくりという項目に関心を持った。県では、南部・東部地域において、全国から注目され、地域の活性化に貢献できる学校づくりのために、具体的にどのような施策を進めているのか。</p>	教 育 長

奈良県高校生議会「提言」目次

番号	件名	趣旨弁明者	賛成者
提言 第1号	奈良をもっとWi-Fiの使える街に	(智辯学園奈良カレッジ高等部) 平沢 麻緒 <3番>	(育英西高等学校) 宮崎 緑才 <5番>
			(高田高等学校) 東 佳帆里 <10番>
提言 第2号	昼も、夜も、どんなときも、どんな人も安心安全なまちづくり	(育英西高等学校) 神谷あゆ美 <7番> 竹内 千乃 <8番>	(郡山高等学校) 松井 奈央 <14番>
			(登美ヶ丘高等学校) 尾崎 虹星 <22番>
提言 第3号	少子化対策の子育て支援策として、小学校の空き教室に保育所の設置を	(高田高等学校) 村田 美音 <12番>	(智辯学園奈良カレッジ高等部) 法村 武昌 <1番>
			(畝傍高等学校) 中村 有希 <24番>
提言 第4号	観光の振興と林業の保全	(郡山高等学校) 中谷 千幸 <16番>	(登美ヶ丘高等学校) 辰巳 優香 <23番>
			(畝傍高等学校) 森本 千優 <28番>
提言 第5号	交流の場としての歩道の整備	(登美ヶ丘高等学校) 重信 朱音 <21番>	(高田高等学校) 村田 美音 <12番>
			(郡山高等学校) 桑原 一樹 <15番>
提言 第6号	もっと漢方を身近に	(畝傍高等学校) 高橋 紀花 <26番>	(智辯学園奈良カレッジ高等部) 平沢 麻緒 <3番>
			(育英西高等学校) 門野 愛美 <6番>

奈良をもっとWiFiの使える街に

奈良県にはたくさん国宝・重要文化財があります。文化庁「国宝・重要文化財等都道府県別指定件数一覧」(二〇一七・六・九)によるとその数は東京、京都に次いで三番目になります。にもかかわらず奈良を訪れる外国人観光客は意外と少ないのです。観光庁が発表した二〇一六年の統計によりますと、都道府県別宿泊者数で京都は第四位であったのに対して、奈良は二十五位でした。

なぜ京都に比べて、奈良は外国人観光客が少ないのでしょうか。それは、外国からの観光客は来日前に下調べをしてくると思いますが、奈良は京都に比べ圧倒的に情報量が少ない為に、奈良での滞在時間が少なくなってしまうことが考えられます。

奈良には宿泊施設が少ないことも従来より指摘されている通りです。この点において、奈良少年刑務所を宿泊施設にすることが進められています。奈良の観光が発展する起爆剤になれば良いと思います。

ところで、和歌山県立博物館では、実物大で3Dプリンター製の文化財レプリカを作っています。視覚に障害がある方に情報を伝えるとともに、誰もが触って楽しみながら学べるようになっていきます。始めています。これをもっと広めていけばいいのではないのでしょうか。これで誰にでも優しく楽しめる観光へと生まれ変わることが出来ます。また、ミニチュアサイズの大仏様を作るのも良いと思います。あの東大寺の大仏様が小さくなって触れるようになるのです。今迄は大仏様を見上げていたのに、今度は大仏様の全体像を一目で見られるようになります。既に東大寺が作成している大仏様のVR映像と組み合わせればよりわかりやすいものとなるでしょう。国宝・重要文化財がもっと身近になるわけです。

そして、フリーWiFiを使える場所を拡大していきましょう。フリーWiFiが更に広域で使えるようになれば、奈良を訪問している外国人観光客が自分の実際に訪れた寺社仏閣やお店の情報を発信してくれるようになります。

このように、3DプリンターやWiFiなどを活用して文化財や古都である奈良の町をたくさんの人に知ってもらい、更に発展し魅力ある街になれば素晴らしいと思います。そこで、観光に関する取り組みに対して県から積極的に補助金の交付などの支援を行い、観光業を中心とした奈良県の活性化を図ることを提言します。

平成二十九年八月二十二日

奈良県高校生議会

提言第二号

昼も、夜も、どんなときも、どんな人も安心安全なまちづくり

奈良の夜は暗いです。夜が暗いことは自明のことですが、私は大変暗いとの印象をもっています。現代社会において、産業構造の高度化からくる経済発展社会において、夜間も活動時間です。社会人であつても、学生生徒児童であつても、高齢者の方であつても、どのような方であつても、昼夜問わず活動しています。そして、女性の社会進出著しい現在、住宅地が続々と増加している本県において、時間を問わず、安心して活動できる、いや、歩くことができる街づくりは喫緊の課題ではないでしょうか。

私たちの学校は近鉄富雄駅から徒歩二十分ほどのところにあります。大阪にも京都にもアクセス便利な近鉄富雄駅がある本校周辺は住宅の開発が進んでいる地域の一つでもあります。その新興住宅街であるにも関わらず、夜間帯の街や道路、歩道が暗いと感じるのはどうしてでしょうか。

今回、防犯と街灯について調査しました。福山大学人間文化学部の平伸二教授らの研究から、青色街路灯がもたらす効果や青色・白色複合LED照明における各種効果について知ることができました。また、青色街路灯のモデル地区として本県が調査対象となっていたことも知りました。研究の結果によると、照明を青色に替えるだけでは防犯効果は期待できませんが、防犯のシンボルカラーとして地域住民の防犯意識を高め、自主防犯活動が活発に行われることが犯罪抑止につながるそうです。さらに、LED照明は、比較的低コストでの実施が可能で十年ほど消費寿命があり、しかも消費電力が抑制でき、従来のものより明るさが向上することから防犯効果も期待できるとのことです。

近鉄富雄駅周辺に青色・白色LED照明を設置し、夜間帯の歩道をもっと明るくして、さらに地域の防犯意識を高めることで、より安心安全な街にすることができると思います。また、県内の他の地域にもこの取り組みが広がって、県全体の犯罪を減らすこともできるのではないかと思います。

私たちは提言します。安心安全な街づくりのために、街路灯の青

色・白色LED化を実現し、その先進モデルとなりませんか。

平成二十九年八月二十二日

奈良県高校生議会

少子化対策の子育て支援策として、
小学校の空き教室に保育所の設置を

少子化が進んでいるといわれている今日、出産する女性の人口規模が減少し、出生数は減少傾向にあり、奈良県でも少子化は重要な課題となっています。

内閣府の調査によりますと、理想の子ども数を持ってない理由として、「子育てや教育にお金がかかるため」が最も多く、「自分の仕事に差し支えるから」もその一つとして、大きな割合を占めています。それらの課題を改善するためには、子育てしやすい環境を整える必要があります。

その方策としましては、まず地域子育て支援拠点など子育てをする親たちが気軽に悩みを相談できる機関や経済的支援を増やしていくことはどうでしょうか。経済的支援の例としては、安心して子どもを預けることができる施設を増設すること、また、子どもを社会で育てるといふ観点から子どもを保育所に通わせることを義務化し、保育料を無償化することなどがあるのではないかと考えます。

また、私は待機児童の問題が喫緊の課題だと考えます。最近、マスコミ等で待機児童の問題が数多く取り上げられています。奈良県でも年々改善されているようですが、奈良市、生駒市の待機児童の数が少し多いようです。女性の社会参画を進めていく中で、待機児童の問題が解決しない限り、職場復帰と活躍推進は難しいのではないかと思います。このような状況を改善するために、小学校の空き教室を利用するなど、保育所の増設と保育士の養成及び増員が必要です。

待機児童を解消し、私たちが将来、子育てしやすい奈良県を実現するため、安心して子どもを預けることのできる施設を増設する方策として、保育所を小学校の空き教室に設置することを提言します。

平成二十九年八月二十二日

観光の振興と林業の保全

私たちが観光の振興と林業の保全という観点から提案したいことは、吉野杉や吉野桧などの奈良の木材を使用した体育館やホールの建設です。

奈良県は世界に誇れる文化都市だと思つています。六月には県内のいろいろな施設を利用して今年で五回目をむかえる「ムジークフェストなら」も盛大に行われました。そして県内初のプロスポーツチーム「バンビシャス」もジャパンバスケットボールBリーグで活躍中です。このように奈良県には文化・スポーツを愛する人たちが多く暮らしています。

国内で盛り上がりを見せている、二〇二〇年に開催される東京オリンピックのメイン会場になる新国立競技場は日本を象徴した木をふんだんに使用したものになると報道されています。

多くの県民が文化やスポーツに親しめる環境づくりのために、奈良県の木材を使用して体育館やホールを建てることで、現在危機的状況にある奈良県の林業を活性化し、その優れた建築資材である吉野杉や吉野桧の魅力を多くの方々知ってもらうことが出来ると思います。また、奈良県のスポーツ、文化の発展にも繋がります。多くの方が奈良を訪れるきっかけとなるので観光の振興にもなります。私達は観光の振興と林業の保全という観点から、奈良県の木材を使用した体育館やホールの建設を提言します。

平成二十九年八月二十二日

奈良県高校生議会

交流の場としての歩道の整備

私たちは、「住みやすく魅力ある奈良県づくり」を進めるために、日常よく利用する歩道を、人と人との交流の場として整備できないものかと考えました。

現在、奈良県では、奈良県安心歩行空間整備方針（平成二十三年）に基づき、歩道整備が着々と進められているところでもあります。実際に、多くの場所で整備が進んでいることを実感します。

かつて、「道」には人と人が出会い、交流する場としての大きな役割がありました。私たちは、奈良県においてハード面で歩道整備が推進される今こそが、その忘れかけていた役割を現代に復活させる絶好のチャンスだと捉えています。

私たちは、何も大きなことをする必要はありません。ただ、歩道の片隅に、歩く人の妨げにならないよう小さなベンチやプランター等を置き、犬の散歩やウォーキング、買い物帰りの人たちが立ち止まり、気楽に「たまれる」空間を作るだけでいいのです。あとは、そこに集う人たちが自然と交流を重ね、良い人間関係が生まれることを待つばかりです。

以上のように「交流の場としての歩道の整備」は、少しの仕掛けと費用で市民生活の質をあげることが可能であり、「住みよく魅力ある奈良県づくり」のために、是非とも進めていただきたい施策として提言致します。

平成二十九年八月二十二日

奈良県高校生議会

もつと漢方を身近に

私たちは、中高年の人たちよりも十代から二十代をターゲットにした漢方のアピールが足りないと感じました。そこで、もつと若者に漢方をアピールしていくために、三つの案を考えました。これらの案は、「若い世代は、漢方の存在をよく知らないが、SNSなどを利用する人が多く発信力が大きい」こと、また、「頭痛、冷え性などは若者にも起こるので漢方の需要はある」こと、をもとに考えたものです。

一つめは、ならまちなどにある観光客や若者向けのカフェで大和トウキなど漢方を使ったメニューなどを出してもらうことです。主に若い女性の間では、写真映えするものを撮影しSNSにあげることが流行しています。また、健康志向の女性も多く存在します。だからおしゃれで体に優しいことをコンセプトにした薬膳料理は、奈良県内にとどまらず全国の若い女性に興味を持ってもらえると思います。さらに、そのカフェを訪れた人が料理の写真をSNSに掲載することによって、それを見た人がまた店を訪れる、という相乗効果も得られます。

二つめは、奈良県内の小中学校での普及活動です。たとえば、森野旧薬草園の見学といった校外学習や、薬膳料理についての学習などをを行うことです。これらを通して、漢方の存在を若い世代に知ってもらい、漢方をより身近に感じてもらうことができます。

三つめは、薬用作物栽培キットの開発です。家庭でも育てられるような薬用作物を選定し、種や肥料、育て方ブック、プランターをセットにして販売したらどうでしょうか。育て方ブックには、薬用作物の調理方法を載せたりするなど、実用可能な情報を取り入れるとなお良いと思います。家庭菜園をするような感覚で自らが薬用作物を育てることで、薬用作物を家庭で気軽に取り入れられる環境を作ることが可能になります。また、薬用作物栽培キットは二つめの案と連携して、子供の自由研究の題材や学校の教材として使用することもできます。

このように「漢方を身近に感じてもらう」ことで私たちのような

若い世代にも、漢方は浸透するのではないでしようか。今は、小学生でも体の不調を訴える時代です。だからこそ、漢方が現代の社会に必要なのではないでしようか。

平成二十九年八月二十二日

奈良県高校生議会